

学生会館改修の考え方

A. 目標

1. 安全性を重視したデザイン（地震，火災，盗難）
2. 居住性と経済性の両立－環境への配慮（高断熱，衛生）と維持コストの削減
3. 可変性－長期の使用に耐えるデザイン（サステナブル）
4. 使用可能スペースの創出

B. 方法

使用室の階層化（フロア－エリア－ユニット－スペース）により安全性，居住性，可変性を確保し，使用可能スペースの創出に努める。

1. 安全性

- 1) 必要な構造補強を行い，地震への安全性を高める。
- 2) 盗難に対しては，エリアごとにセキュリティラインを設ける。
- 3) 盗難防止の観点からも自然光による明るさと透明性を確保した見通しのよいデザインとする。エリアを区切るドアや中廊下側の壁を半透明のガラスとするなどの工夫を行う。

2. 居住性と経済性の両立

- 1) 断熱効果を高め，省エネルギーに努める。
ペアガラスの使用。
可能なら外壁に外断熱。
空調機器の集約
- 2) 衛生で健全なスペースの確保のため，居室をまとめ，間仕切りを設置する場合も高さをおさえ，1室の気積を十分に確保する。
- 3) 水周りの設備を集約し，点検や維持費用の削減を図る。

3. 可変性

- 1) 方法，各階を西，中，東の3エリアして計画する。
- 2) ~~ゾーン~~内^{エリア}に下記のユニット（部屋）をもうける
 - a) 水周り（便所，洗面所）等のサービスユニット
 - b) 主として備品や物品を保管する（部室）ユニット
 - c) 主として人間が交流する（ミーティングスペース）ユニット
 - d) 音楽練習室
- 3) ユニット内は必要に応じて間仕切りで仕切ることにより可変性を確保する。

4. 使用可能なスペースの創出

学生のニーズに応える機能の集約による部屋の確保

- 1) 現在，および将来にわたる課外活動を支援すべく，機能を集約し，スペースの確保に努める。
- 2) 便所等の集約，不要なラウンジ，廊下のユニット化，新学生会館のシャワー室の利用により純面積を増やし，物理倉庫の移転分を確保する。

参考：純増可能面積（参考図の場合）

・ 1階西南入り隅部のユニット化	48 m ²
・ 便所のスペース化 12 m ² ×3＝	36 m ²
・ 2階ラウンジのスペース化	36 m ²
・ 廊下のスペース化 1階 12 m ² , 2階, 3階 36 m ² , 84 m ²	
・ 新学生会館シャワー室の利用	72 m ²

計 276 平米

旧物理倉庫のネット面積に匹敵。

次ページ以降に各階のゾーニング例を示す。

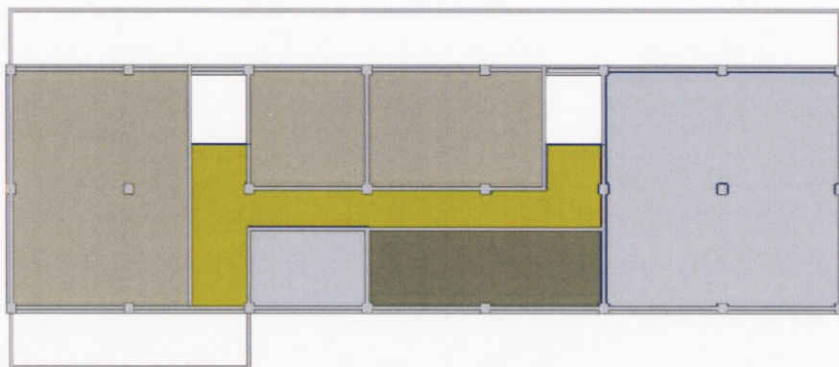
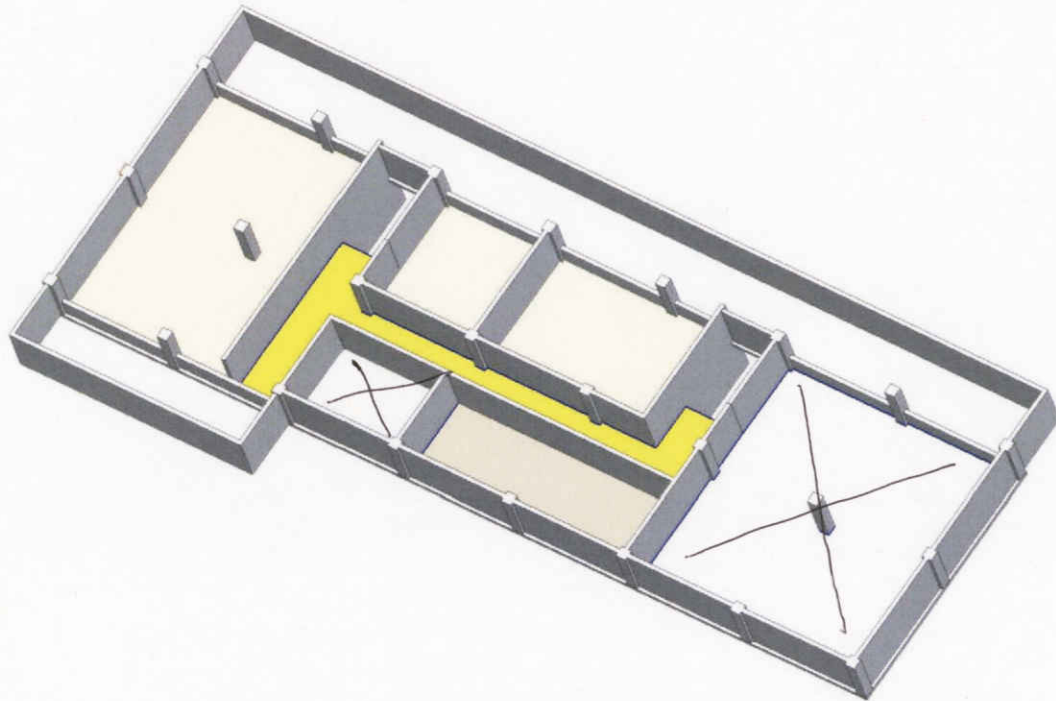
ユニット内にパーティションによる分割を点線で示してレイアウト図を作成してほしい。

なお、パーティションの高さは2 m弱程度（天井まで達しない）を予定してる。

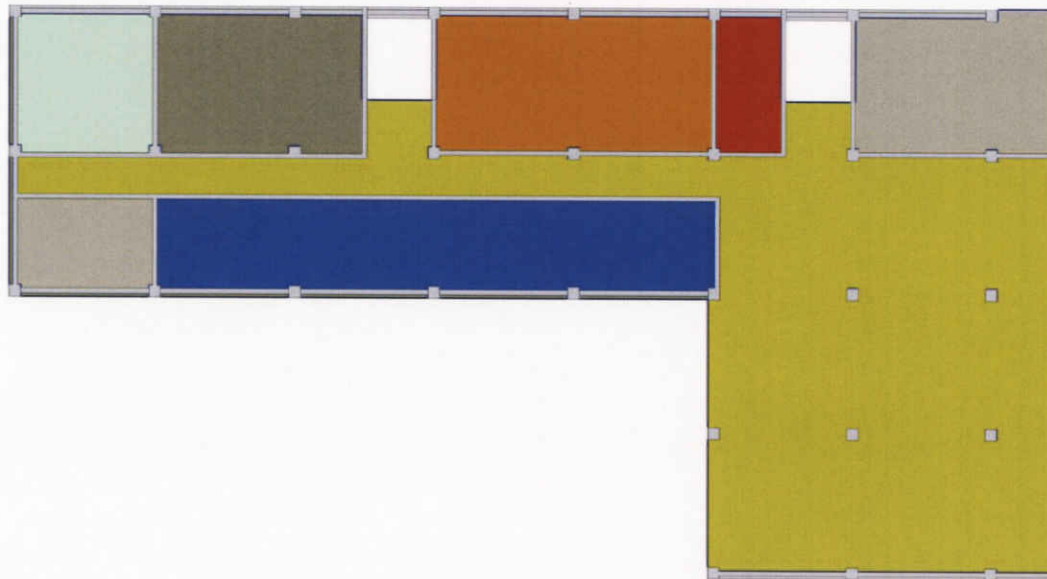
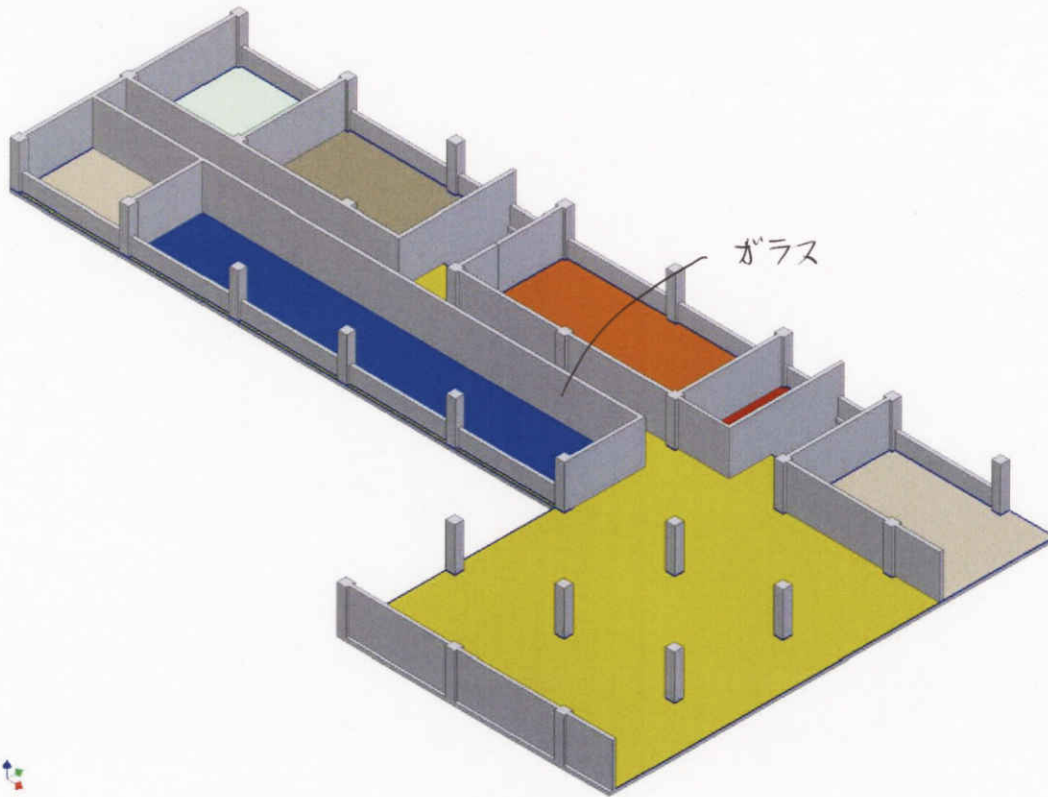
場合によっては、ユニット内の柱－柱間に耐震壁が必要となる。

地階のゾーニング例

音楽練習室（大）（中）
音楽関係部室
倉庫

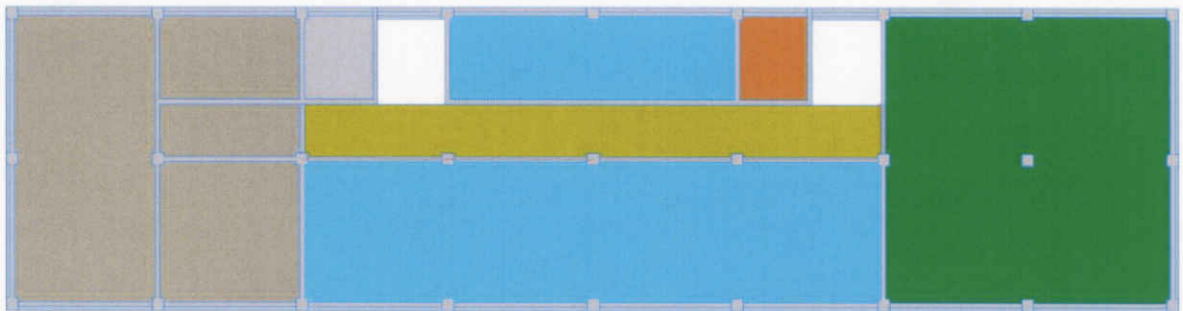
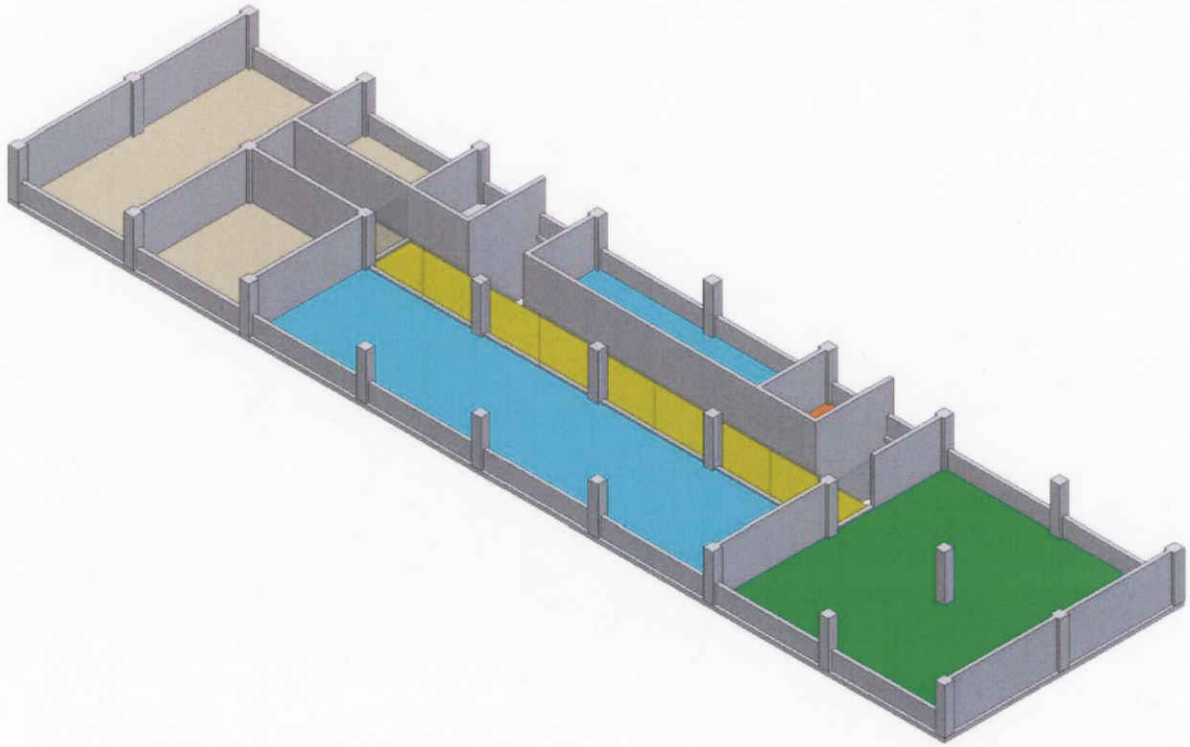


1階のゾーニング例
色はユニット（部屋）を示す。



2階のゾーニング例

色はエリアを示す



3階のゾーニング例

色はエリアを示す

